医師・看護師等の大幅な増員を求める意見書

第166回通常国会において、

1. 医師・看護師など医療従事者を大幅に増員すること。
2. 看護職員の配置基準を「夜間は患者10人に対して1人以上、日勤帯は患者4人に対して1人以上」とするなど、抜本的に改善すること。
3. 夜勤日数を月8日以内に規制するなど「看護職員確保法」等を改正すること。

の請願が採択されました。

いま医療現場の実態はかつてなく過酷になっており、医師や看護師等の不足が深刻化しています。看護師は仕事に追い回されて疲れ果て、「十分な看護が提供できている」と考えているのは看護師の1割にも届かず、4分の3が「辞めたい」と思っているほどです。医師の勤務実態も深刻で、日本医労連のアンケート調査では、8割以上の勤務医が月3回は32時間連続勤務を行い、3割を超える医師が「過労死ラインの月80時間以上」の時間外労働を強いられ、女性医師の6割以上が妊娠時の異常を経験し、5割以上の医師が職場を辞めたいと考えていることも明らかになりました。

奈良県でも、医師・看護師の確保が困難なため、産科、小児科をはじめ、診療科の縮小や病棟を閉鎖する病院が後を絶ちません。また「医師、看護師の確保がむずかしい」ことを理由に病院自体を閉院してしまうケースも生まれています。県内の地域医療が崩壊してしまうことさえ危惧されます。

こうした危機的な状況を打開することは国民の切実で緊急な願いとなっています。

よって国におかれては、医療現場での大幅増員を保障する医師・看護職員等の確保対策を抜本的に強化されるよう要望します。

記

1. 国会で採択された請願内容に基づき、看護師等を大幅に増員するため、月8日以内に夜勤を規制するなど「看護職員確保法」を改正すること。
2. 医師の養成を大幅に増やし、勤務条件の改善をはかるため、医師確保に向けた法律を制定すること。
3. 医師・看護師等の大幅増員に必要な財政措置を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成19年12月12日

大和高田市議会